

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.22)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福岡高地区簡裁庁舎	階数	地上12F地下2階
建設地	福岡市中央区六本松4丁目300番22	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,000 人
気候区分		年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2014年12月1日
敷地面積	20,000 m ²	作成者	山中浩太郎
建築面積	4,521 m ²	確認日	2015年1月30日
延床面積	56,903 m ²	確認者	村尾 忠彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.9</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2のスコア = 3.8</p>	<p>Q3のスコア = 3.5</p>

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 3.9</p>	<p>LR2のスコア = 3.7</p>	<p>LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>□「裁判所」として必要の高いプライバシー性能とセキュリティ性能を確保する一方で、過度に閉鎖的な建物とならないよう、外装計画や外構計画においては周辺環境に最大限適応した、親しみやすい建物となることを目指した。また、長期に渡り使用する建物であることから、平面計画のフレキシビリティの確保、LED照明の設置や中水利用などによる省エネルギー性の向上など、長期間の運用を考慮した環境設計を行った。</p>	<p>その他</p> <p>□外装計画は、周囲が住宅地であることから、長手立面となる南北面は基礎部、基準部、頂部の表情を変え、三層に分節した構成とすることで長大な壁面となることを回避した。さらに、基準部、頂部には縦窓、横窓を設置することで、各層をより細かく分節し、圧迫感の軽減に最大限配慮した外装計画とした。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>□敷地外周部は積極的に緑化し、公共空地と、敷地内部の緑地が一体的に連続した緑地空間となるように計画した。また、既存樹木と新植樹木を織り交ぜた植栽計画とすることで、既存の自然環境を継承する計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>□公判で使用する一部の部屋の遮音性能は開口部遮音性能T-2、界壁遮音性能はDr-45以上とし、高い守秘性を確保した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>□敷地外周部は積極的に緑化し、公共空地と、敷地内部の緑地が一体的に連続した緑地空間となるように計画した。また、既存樹木と新植樹木を織り交ぜた植栽計画とすることで、既存の自然環境を継承する計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>□南北面の外装は、アルミ製横庇、PC製縦庇を設置し、ともに外壁から500mm突出させることで建物外皮の熱負荷を軽減し、高い省エネルギー性能を確保した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>□リサイクル資材を構造材、仕上材ともに積極的に利用する計画とした。具体的には構造材では身材に高炉スラグを使用、仕上材ではタイルカーペットやビニル床タイルなどにリサイクル資材を使用した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>□南北面において、外壁から500mm突出させたPC製縦庇を配置することで、外壁面の反射光を抑制する計画とした。</p>
<p>□機械設備は高効率機器を採用し、室用途に応じた風量制御を行うことなどで一次エネルギー消費量を削減する計画とした。</p>	<p>□接着剤や塗料塗材などには、有害物質を含まない材料を使用し、室内空気を汚染しない材料計画とした。</p>	<p>□計画段階で風シミュレーションを行い、風環境を把握し、植栽計画などに反映させることで、敷地内外において良好な風環境が得られるように配慮した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される